

介護支援専門員が行う ケアマネジメントの原点と 今後の方向性

利用者の幸せを叶えるようサポートをするケアマネジャー。多忙を極め、この素晴らしい役割を実感する機会が少ないのが現実かもしれない。そこで、ケアマネジメント研究の第一人者の1人である岡田進一氏とともに、改めてケアマネジャーの価値と未来を見つめてみたい。

1. ケアマネジメントの原点とは何か

ここでは、まず、介護支援専門員が行うケアマネジメントとは、もともと、どのような仕事として成立したのかのお話をします。古い話にはなりますが、介護支援専門員のルーツとなりますので、少しお付き合い下さい。

イギリスのケアマネジメントに関する重要な文献の1つの筆者であるモクスレイ (Moxley, 1989) は、ケアマネジメントについて、次のように書いています。ケアマネジメントにおいては、サービス利用者 (原典では、「クライアント」以下、「利用者」) の視点を尊重しながら、さまざまなサービスを調整し、利用者がさまざまな機会や利益を確保していけるように支援していくことが重要と述べています。

このころ、誰の視点でサービス調整を行うのがケアマネジメントでの論点の1つとなっていました。そして、ケアマネジメントにおける視点には、2つの視点があるとされていました。1つの視点は、サービス提供者 (専門職) の視点であり、もう1つが利用者の視点です。ケアマネジメントが始まった初期の段階 (アメリカにおける1970年代) においては、専門職の視点でケアマネジメントを

行うことが重要とされていました。

しかし、アメリカやイギリスにおいて、1980年代後半から、ストレンクスやエンパワメントなどの議論が盛んになり、利用者や家族の視点を尊重していくことがケアマネジメントの重要な課題となり、現在に至っています。私は、折衷的な立場を取り、両者の視点をバランスよく取り入れ、利用者や家族が納得できる生活を営むことができるように支援を行っていくことがケアマネジメントの原点と考えています。

ケアマネジメントについての一般的な定義は、「介護および医療サービスなどを利用者の生活ニーズにあわせて調整するための実践活動」となります。しかし、この定義は、日本の熟練した介護支援専門員の実践活動を反映した定義とはなっていません。また、日本でのケアマネジメントは、用語発祥の地であるイギリスにおける原義から変化して、日本の中で培われてきた内容になりつつあると私は感じています。

日本の熟練したケアマネジャーの実践活動を反映した内容とするためには、「ケアをマネジメントする」という原義ではなく、「ケア」と「マネジメント」を行うことが日本におけるケアマネジメントではないかと思っています。

「ケア」と「マネジメント」を行うケア



執筆 ▶
岡田 進一

大阪公立大学大学院 生活科学研究科 教授